# だれもが尊重される社会へ 世界のエネルギー結集

## フォルカー・トゥルク国連人権高等弁務官

世界各地で人権が脅かされる状況を、私たちはどう改善していけばよいのか。国連の人権活動を担うフォルカー・トゥルク人権高等弁務官が、今年6月に始動した「人権のためのグローバル・アライアンス」という運動について、朝日新聞に英語で論考を寄せた。翻訳した全文は以下の通り。

### 国連の活動巡り本紙に寄稿（全文）

戦争、気候の混乱、分断、強欲。ニュースを見れば、これらが世界を定義づけると思うかもしれない。戦時の国際法はないがしろにされ、平和には手が届かない。権威主義が分断をあおり、権力は少数の者の手に握られている。

だが、主要ニュースの背後には、はるかに前向きな、もうひとつの現実がある。

それは、世界中の大多数の人々が、暴力や憎悪、不正義に強い怒りを覚えている、ということだ。人間を守るルールが、誰に対しても常に尊重されるよう人々は求めているのだ。

人権問題に取り組む人々を結集させるべく、国連人権高等弁務官事務所は今年6月、「人権のためのグローバル・アライアンス」を立ち上げた。多くの声を代弁し、巨大なエネルギーを現実の変革へつなげる試みだ。

1人でも、個別の政府や組織でも、人権上の課題に対処はできる。だが世界的な運動なら、はるかに多くの成果を上げられるだろう。

今日、私たちの周りには、奴隷制度や植民地主義、家父長制、アパルトヘイト（人種隔離）と闘った運動と同じエネルギーが満ちている。人々は正しいと信じることのために集結するのだ。

グローバル・アライアンスは、政府や都市、市民社会、若者、企業、慈善団体、思想家、芸術家、そして科学者を実践的な方法で結びつけ、人々の課題に取り組む。

最初の取り組みの一つが「人権都市」だ。世界各地の都市や地方当局は人権に着目している。交通、教育、社会的なセーフティーネットまで、現代の課題の具体的な解決策につながるからだ。

フィリピンのバギオでは、予算や入札の手続きがアプリで追えるようになり、地方政府の意思決定の透明性が高まった。ケニアでは、私のスタッフが地方当局向けの人権教育を支援している。

取り組みは、若者の動員や、ビジネスとテクノロジーにおける人権、気候変動対策、科学、哲学、スポーツ、信仰にも広がっている。

人権のためのプロジェクトは、議会や政府、街角や教室、会議室、地域社会など、至る所にある。学生や市民社会、住民組織のリーダー、地方の公職者、人権運動家から、私は刺激を受けている。彼らは、地域社会をより安全にし、人々の生活を向上させるために粛々と働いている。

グローバル・アライアンスは、これらの取り組みを結びつけ、強化することを目指す。静かな多数派を、より見えやすくする取り組みだ。

私たちが直面する課題は複雑で、政府も社会も難しい選択を迫られる。人権は、そうした選択をより賢く、より巧みに、より公正に導く羅針盤となるのだ。

発足して100日が過ぎ、グローバル・アライアンスには様々な地域、分野から関心が寄せられている。政府や市民団体、学術機関、企業など、約600の組織が名乗りを上げ、人権都市のネットワークは世界120カ所へと急速に拡大した。スポーツ界でよく知られる5人の選手らが早くも加わり、世界から12人の若者が政策提言グループ「Youth4Rights」に参加している。皆さんのアイデアとエネルギーを持ち寄って、ともに歩み始めましょう。

掲載：朝日新聞　2026年10月17日　（承諾番号：26-2336）

＊朝日新聞社に無断で転載することを禁じます